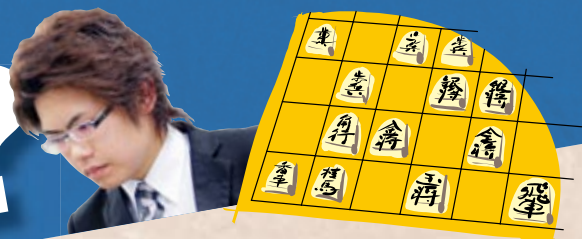


広国から プロ棋士誕生?



アマチュア将棋名人戦

2009年9月12日から14日にかけて、東京で行われた全日本アマチュア将棋名人戦にて、薬学部4年の山崎由太郎さんが見事優勝しました。名人戦は予選を勝ち抜いた各県の代表64名で争われる大会です。山崎さんは2年ぶり、2度目の出場場で、見事栄冠に輝きました。大会に優勝したことにより、山崎さんは六段に昇段し、棋王戦出場と羽生名人との角落ち記念対局の権利を得ました。



夏休みはひと月以上にわたり、1日10時間の特訓を課し、大会に挑んだそうです。格上の対戦相手への勝利に「ミスは相手方が少なかったのに自分に運があった。勝負は力だけじゃないということを知りました」と謙虚に話されていました。「予選通過どまりから脱却しなかった。結果が欲しかった」という山崎さんの執念の勝利と言えますでしょう。

羽生名人との角落ち記念対局

10月14日には、東京将棋会館において、プロの羽生善治名人との角落ち記念対局が行われました。「100局以上の角落ち戦の棋譜を研究した。1回の対局にここまで時間をかけたことはない」という周到な準備で挑んだ対局は、3時間に及ぶ熱戦となりました。残念ながら135手で羽生名人の勝ちとなりましたが、羽生名人が「難解な将棋だった。山崎さんの勝ちの局面もあった」という一局でした。感想戦では対局を振り返りながら、1時間程羽生名人と将棋談議。山崎さんの満面の笑顔が印象的でした。



山崎由太郎名人の将棋教室

10月31日、呉キャンパスで金曜ゆめ倶楽部イベント「山崎由太郎名人の将棋教室」が開催されました。一般の方を含め、20名程の参加者があり、名人戦決勝の棋譜解説、多面指しによる指導対局が行われました。スタッフは、「来てくれた人達から、とても喜んで貰って光栄でした」という司会の薬学科3年の佐々木俊行さんと「終始緊張していて上手く話すことができませんでしたが周りのサポートに助けられました」という聞き手の情報通信学科2年の鈴木康範さん。スタッフと山崎さんのチームワークもよく、和やかな雰囲気で行われました。参加者の熱心な質問が決勝戦の局面分析に発展する場面も。山崎さんも「見落としていた変化を教えてもらった。みなさんの方が強いのでは?」と応じる程の盛り上がりでした。

指導対局後の自由対局では、地元の方々や本学の学生、教職員が互いに対局し、将棋を楽しみました。山崎さんの明るく気さくな人柄が伝わり、将棋談議も弾みました。世代を問わず、多くの方が交流した時間でした。

山崎さんからのメッセージ

山崎さんは「自分の立ち位置は決まっていない」と言います。結果が出ない時期が続き、限界を意識したこともあったそうですが、自分の可能性を信じる気持ちと粘り強い努力が、今回の名人戦優勝につながりました。また、升田幸三さんの言葉「強さは伝播する」をモチーフに「素晴らしい人の隣にいただけで何かを吸収できる。広島国際大学の先生方、呉の方々から多くの力をいただいたように思う」と話されていました。「昔から将棋が好きだったが、今が一番好きだ」と言う山崎さん。今後の活躍が期待されています。

将棋部準備会を作りませんか

将棋部準備会を作りたいと考えています。興味のある方は、呉学務課までご連絡ください。

鈴木康範 山崎由太郎 佐々木俊行



ポスター：佐藤康太(看護学科1年)
写真：古賀 駿(写真部、建築学科2年)
藤坂美彦(プロカメラマン)
常翔学園広報室

